

曾於文藝

「題字」

末吉文化協会会員
瀬戸口 淳 氏

俳句

末吉俳句会

それぞれにそれぞれの風植田
かな

児玉 典子

堰音の激つ川上合歡残る

古藤 美奈子

二纏の君の跳躍青蛙

前原 梯子

大隅俳句会

池浚ひ蛙の声もさらひけり

岩重 みどり

夏霧の山なみうすく見えかくれ

穎娃 晴美

手を合わせ拝みたくなる盆の月

川崎 綾子



威勢の良い神輿
(末吉サマーフェスタ 2012)

短歌

末吉山茶花短歌会

夏至の日に昼を暗くし降る雨
に樹々は緑に潤ひ満ちて

池田 明人

一週間経ても咲きつぐ並木路

山法師の花純白に映ゆ

小園 セツ子

早朝の工房に籠り黙々と米寿

記念の湯呑みを作る

福岡 宏晴

大隅短歌会

畔道の茅の穂綿はかがやきて
五月の風と旅立ちゆけり

伊勢 タミ子

闇に啼く時鳥の声聞こえくる

聞こえざりいし難聴のわれに

吉崎 フサ子

加勢する弟妹六人引き連れて

親爺気分て田植えにむかう

加塩 秀子

財部短歌会

さかり越えつゆに耐えしぞあわれなるむくげ花落つ一つまた一つ

山城 忠

金環日食に盛り上がりたるに思ひ出ず部分日食のあの木漏れ陽の影

瀬戸口 芳子

学習の田植え体験むずかしい先生役は村のおじいさん

川俣 若

花芯まで濡れそぼしたる紫陽花は首うなだれ梅雨荒ぶ庭

井上 澄子

一年に一度出番の田植機が高齢農家の担い手となる

児玉 次雄

うぐひすの豊かな歌声厨辺にけさも聞きつつ野菜を刻む

杉村 リカ

原生林秘めし力を溜めおきて時季来たる待つ梅雨明けの山

祝迫 道雄

文明や人は居ずして田植へ済む田舎も人居ずして時代は変わりぬ

橋口 貞男

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

抜く髪 気の小め青年ん
不様面 浜田 一好

歳しや増えつ 来たしこ髪な
薄すけなつ 森山 厚香

気あ若こし 髪な染めてん
目立つ皺 桐野 奈世

白髪てん あれば日除けち
梅ん禿頭 鈴木 一泉

大隅薩摩狂句会

竹ん子が 初物ん値札て
反い返えつ 神宮司 素水

大事し飾つ 貫ろた初物は
口ち入らじ 新屋 涼子

初物西瓜 お前ちぎれち
孫い言つ 太良木 五徳

初物団子 精霊どんよっか
孫が先つ 津留 群志